

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立荻野小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 押切 晴美

学校教育目標

学校経営の方針

確かな力と豊かな心をもつたくましい児童の育成

荻野の歴史や自然、人とかかわりの中で、地域の教育力を活用した、地域とともに歩む教育活動

今年度の重点目標

○自他を大切にする子の育成 ○確かな学力の向上に向けた授業改善 ○あいさつを交わしあえる関係の構築

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
基礎的・基本的な内容の定着を図るための実践に取り組む。	1	ペア学習・グループ学習などを取り入れた指導。協働による問題解決。	児童につけたい力を把握し、計画的に算数の基礎問題を行う時間を取り入れた。また、「チャレンジルーム」を活用し、個別指導の充実を図ることで、児童の学習への意欲の高まりと学力の向上が見られた。	算数の少人数指導など、児童の実態に合った指導を柔軟に行えるようにする。学習ボランティアの人員確保に努める。学習形態を工夫する。
主体的・対話的で深い学びを生み出すための工夫、授業改善をする。	1	ペア学習・グループ学習などを取り入れた指導。協働による問題解決。	ペア学習、グループ学習、GIGA端末などを授業の中で取り入れ、学習に効果がみられる。児童の主体的な発表活動を計画的に行うことができた。	根拠を明確にし、理由を述べて、主張する話し合い活動の場を増やす。少人数で話し合わせる学習形態を工夫する。
学びに向かう意欲を培う。	1	学習規律の徹底。体験活動の充実。外部講師の招聘。学習の振り返りの充実。	本物に触れたり体験をしたりするために、地域の外部講師を呼び、児童の意欲の向上へとつながった。児童が学習について自ら振り返ることを継続することで、調整力の高まりが見られた。	児童が学びを調整する学習活動の支援の仕方を工夫する。児童の学習の振り返りを次の学習の意欲化につなげられるように指導方法を工夫していく。
自他を愛し、いじめを許さない精神を養う。	2・3	人権週間やピンクシャツデーの取組。児童教育相談の実施。スマホ・ケータイ安全教室。全校道德の取組。	児童教育相談週間を学期に1回設け、児童一人一人と話をすることで、いじめの未然防止、早期発見対応ができています。縦割りでの全校道德を行い、異学年間で人権について交流し深めることができた。	引き続き児童教育相談を継続し、いじめの未然防止・早期発見対応に努める。校内での情報共有を密にしたり、指導について話し合ったりなど、学級経営を深めていく。
素直に感動する心を育てる。	2	道德教育の充実。本の読み聞かせ。音楽鑑賞教室の実施。	音楽に心を動かされる体験ができ、読み聞かせ、人形劇を鑑賞することで、心を開き感動する経験ができた。費用負担がない形で音楽鑑賞を実現したい。	読み聞かせや人形劇鑑賞の継続など、心が動かされる機会を多く設定する。無理のない範囲で芸術鑑賞教室を実施していく。
互いに励まし認め合い、協力し合う姿勢を育む。	2・3	七沢自然教室・縦割り班活動、縦割り清掃活動の継続的な実施。長昼休みのクラス遊びの充実。	縦割り班活動や縦割り清掃など、異学年での活動を多く取り入れることで、縦の繋がりをもちながらお互いを尊重し、協力し合う態度を養うように指導を継続した。	縦割り班活動がより充実するように、事前指導を行うとともに、児童に考えさせる場を多く設ける。同学年でのつながりと異学年での交流を大切にしていきたい。
地域や自然を愛し、大切にする心を養う。	1・3	1・2年生なかよし遠足、3年生バードウォッチング、6年生地層見学など、学年に応じた地域活動。	身近にある美しい自然に触れることで、自然や地域を大切にする気持ちが高まった。地域の良さを振り返る活動の充実が今後も必要である。	現在の活動を継続していくとともに、地域の人材を活用し、更なる活動の充実を図る。

基礎的な体力・精神力をつける。	1・2	持久走週間、なわとび週間における全校運動の実施。	持久走では、自分の力に合わせながら、走る喜びを感じることができた。また、縄跳びも自発的に取り組む様子が見られた。様々な取組を行うことで、自発的に体を動かそうとする児童が増えた。	全校運動を行う時間、回数を確保し、全校児童が運動を行うようにさせたい。また日頃から外遊びなどの運動に取り組めるように声掛けなどを行っていく。
適切な食習慣を身に付ける。	1・2	日常の指導や給食週間を通して食の大切さの指導。食物アレルギー対応。ニコニコ給食の実施。	栄養士他職員が教室を回って、児童が進んで食べるための指導を継続し、効果を上げた。「ニコニコ給食」を通して、楽しく食事をすることを実感した。給食週間では給食についての展示を効果的に行い、児童の食への関心が高まった。	継続した食育指導を実施する。SDGsと関連付けた残菜を減らす取組なども併せて実施していきたい。
安全・安心への意識を高める。	2・3	避難訓練、登下校の指導、安心教室、交通安全教室、スマホ・ケータイ安全教室の実施。	交通安全教室として、1・2年生が校庭での歩行、3・4年生が自転車の乗り方の指導を実施した。避難訓練も継続的に実施してきた。SNSでのトラブルは少なからずあるので、継続して取組を行った。	よりよい不審者対応訓練のあり方、交通安全指導の充実を検討する。大規模地震時の引き渡しについて中学校区で共通理解を深める。情報モラルについて取組を充実させる。
基本的な生活習慣の確立を図る。	1・2	気持ちの良い挨拶の励行。チャイム着席などけじめをつけて生活することなどの指導を実施。	あいさつ運動や児童の自発的な活動により、校内でのあいさつも増えてきている。また、チャイム着席によって、児童が時間を守る意識をしっかりとつことができた。	荻野小学校スタンダード(生活の決まりの一覧表)を配付し、家庭の協力を仰ぎ、繰り返し指導をしていく。また、機会があるごと全職員間で共通理解を図り、統一した指導をしていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校教育活動全体について、今年度特に充実させた取組について以下の通り報告した。「確かな学力向上にかかわる取組」では、基礎学力向上の取組、地域の特色である、地域人材をいかした教育活動の充実、GIGAスクール端末による授業と家庭学習の実施などについて報告した。「豊かな心の育成にかかわる取組」については、音楽鑑賞教室や人形劇鑑賞の開催、講師をお迎えしての合唱指導の実施、全校道徳やピンクシャツデーなどの児童指導の充実などについて報告した。「健やかな体の育成にかかわる取組」については、全校での運動の充実化、外遊びの活性化への取組、給食指導・保健指導の充実・安全指導への取組などについて報告した。学校の取組がHPや学校だより等分かりやすく伝わっているとの評価をいただいた。また、教職員の働き方改革を進めつつも、教育活動のさらなる充実について、期待したいとの声もあった。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

地域の自然や歴史、人材などの教育資源を活用した教育活動に取り組み、地域に根差した学校経営ができた。校内研究では体育科に取り組み、運動の楽しさを感じ、友達と関わることで、自ら考え学び合う児童の育成を目指した。児童指導、教育相談コーディネータを中心に、児童の諸問題に対して教職員間で迅速に共有し、組織的に指導することができた。「自他尊重」を学校運営の中心に置き、児童、職員がお互いを思いやり、生き生きと過ごせることを意識した。来年度は、新たな教育課題に対して、地域や保護者のニーズを踏まえながら、適切に対応していけるようにしていきたい。